

平成28年 北九州PCB処理事業所トラブル事象一覧(7月～12月末)

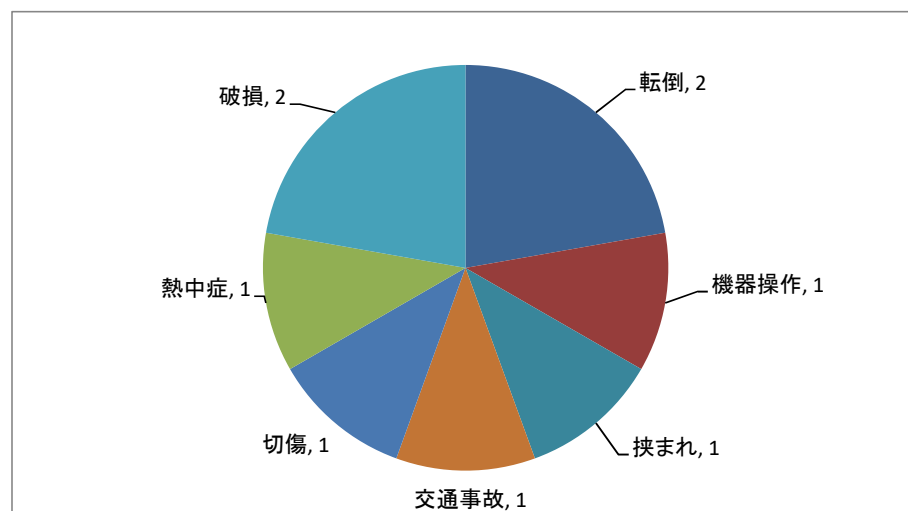
No.	発生日時	発生場所	概 要	対 応 状 況
1	7/3-9:35	2期切断分別室	巡回点検時に、再利用ドラム缶の底部と接する床面に少量の漏れを発見した。	ドラム缶の養生を実施し、その後無害化処分した。6月の再発防止策に則り、対応した。
2	7/4-0:01	2期特殊解体室	基幹物流倉庫より詰替えのため、ドラム缶を収納したパレットを呼出したところ、ビニール袋養生していた1缶に少量の漏れを発見した。	内容物は別のドラム缶に詰め替え、パレットを清掃、空き缶は再養生した上で無害化処分した。6月の再発防止策に則り、対応した。
3	7/4-11:30	2期切断分別室	巡回点検時に、廃タール充填用の再利用ドラム缶の底面に少量の漏れを発見した。	ドラム缶の養生を実施し、その後無害化処分した。6月の再発防止策に則り、対応した。
4	7/6-1:55	2期中間処理設備室1F	巡回点検時に、ポンプエア抜きバルブに木酢液の少量の漏れを発見した。エア抜きバルブのシール劣化によるもの。	木酢液の拭き取りと滲み箇所の特定を実施し、当該バルブを交換することで、その後滲みの発生は無くなった。
5	7/6-1:30	2期中間処理設備室2F	巡回点検時に、ポンプフランジ部から木酢液の少量の漏れを発見した。固定ボルト・袋ナットに多少の緩みがあった。	木酢液の拭き取りと滲み箇所のボルト及び袋ナットの増し締めを実施し、その後滲みの発生はなかった。
6	7/21-0:00	2期中間処理準備室1F	共通班が現場点検時に、木酢判定槽B槽サンプリングラインより少量の漏れを発見した。配管が一部ひずんでシール性が低下していた。	フランジの増し締め後、念のためビニール養生を実施した。増し締めで滲み発生は無くなった。更に、配管がひずみシール性が低下した箇所の交換も合わせて実施した。
7	7/25-16:30	2期特殊解体室	廃アルカリ濃縮物の低濃度処理施設への払出準備のため荷捌倉庫に移動する際、基幹物流パレット上でドラム缶から少量の漏れを発見した。	滲んだ缶の内容物はステンレス缶に詰め替え、空きドラム缶の養生を行い無害化処分した。パレットは拭き取り清掃を行った。6月の再発防止策に則り、対応した。
8	7/26-0:30	2期中間処理準備室1F	設備点検及び保管ドラム缶点検中に、タール充填ドラム缶底部溶接部より少量の漏れを発見した。	滲み箇所の拭き取り実施後、吸着マットでドラム缶底部を養生の上、ドラム缶外部をビニール養生した。内容物の詰替え及び空きドラム缶を無害化処分した。6月の再発防止策に則り、対応した。
9	9/2-9:00	2期TCB分離・減圧蒸留室	巡回点検時にTCB分離塔底ポンプAの下部に少量の漏れを発見した。液が閉め切り状態となり最も弱い逆止弁から油が漏れたものと思われる。	逆止弁のフランジ部に漏洩痕があったため、逆止弁を取外し、ポンプの点検及びメカニカルシール交換を行った。
10	9/8-5:30	2期溶剤蒸留室	巡回点検時に洗浄後溶剤受槽払出ポンプエア抜き部で少量の漏れを発見した。エア抜きバルブの緩みによるもの。	滲んだ液を拭き取り、バルブの増し締めを行った。その後滲みはなかった。
11	9/11-8:00	2期中間処理準備室	廃活性炭を充填したドラム缶から少量の漏れを発見した。SUS缶の初期製品不良によるもの。	現場にてドラム缶を養生し、優先的にVTR設備により無害化処分した。その後新缶での滲み発生なし。
12	10/6-13:25	2期中間処理設備活性炭充填装置	活性炭充填の排出部のアルカリ水洗浄後、アルカリ水をドラム缶に抜出す際、アルカリ液がドラム缶から活性炭充填装置室内に漏れた。 (PCB濃度は、18～4,100ppm)	充填装置室内に漏れた液の回収を実施。ハード面での対策として、バルブ操作場所に重量計を設置し、操作しながら重量確認できるよう改造し、管理強化を可能とした。
13	10/17-9:00	2期中間処理準備室1F	設備点検時に、活性炭カートリッジフィルターの下部フランジ部より少量の漏れを発見した。ストレーナ交換時に付着した油がフランジ部に溜まったと思われる。	フランジ部のボルト増し締めを実施したがほとんど締まらなかった。床に吸着マット敷設、清掃の上で再現テスト(加圧後一定時間放置)を実施したが、新たな滲みはなかった。
14	12/9-9:30	2期中間処理準備室 活性炭処理槽移送ポンプ	移送ポンプ除染のために溶媒を圧送したところ、加圧缶窒素シールレギュレーター上部より少量の漏れを発見したため、すぐに圧送を停止したが残圧で液が垂れて、ポンプ下オイルパン内に漏れた。ポンプメカニカルシール部の不良によるもの。	直ちに漏れ液の拭き取り回収を行い、加圧缶の窒素元弁を閉め、ポンプの除染を実施後、ポンプを交換した。
15	12/17-17:35	2期溶剤蒸留設備3F	巡回点検時に、床面に少量の漏れを発見した。分離塔フィードラインの流量計前のフランジ部に漏れ跡があった。フランジの取り付け状況が平行でない状態だった。ストレーナ清掃工事後気密テストは行なっていたが、流量計自重などで気密が緩んだもの。	フランジの増し締め、油の拭き取り、フランジ部分の養生を実施した。発見時点では漏れは止まっており、その後新たな漏れは無い。

※「少量の漏れ」とは滲みやポタポタ程度の微量漏洩をいう。

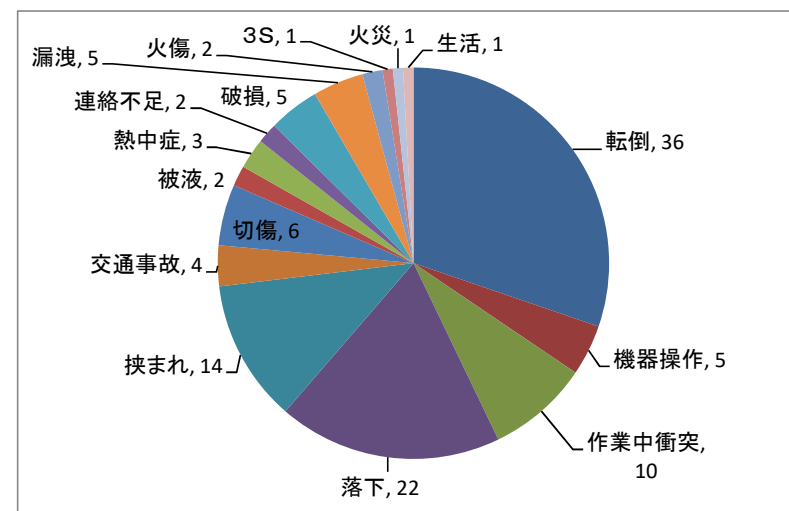
ヒヤリハット件数 平成28年1月～平成28年12月

年	H28												小計
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
実体験	1	0	0	0	1	1	0	1	1	0	2	2	9
仮想	7	7	8	10	7	9	7	9	8	17	16	14	119

”実体験ヒヤリハット”は、提案者が現場で体験してヒヤリ・ハットした事象であり、”仮想ヒヤリハット”は、提案者が現場で、もしかしたら発生するのではないかと考えた事象。



実体験ヒヤリハット



仮想ヒヤリハット